

研究テーマ：音読の声を大きくするにはどのようにすればよいか

所属 室戸市立室戸東中学校
氏名 椋本 純子
RG JH 1

【アクション・リサーチⅠ・Ⅱ】

1 研究の背景

室戸東中学校は、全校生徒 19 名の小規模校で、刺激が少ないためか、大きく軌道を逸れる生徒もいない反面、飛び抜けて向上しようという意欲や活発さが足りない気がする。気持ちを解放して元気良くあいさつしたり、自主的に活動したりする明るさがもう少しほしいと感じる。まじめではあるが、失敗を恐れ、非常に慎重で、十分に自信を持ってないことはなかなかやる気にならない消極的な面が多々見られる。必然的に、音読や発表の声も小さい。特にその傾向が顕著な 2 年生（男子 2 名 女子 3 名）をリサーチ対象クラスとして手立てを考えた。

2 リサーチ・クエスチョン

音読の声を大きくするにはどのようにすればよいか。

3 予備調査

（1）授業観察（2）アンケート（3）英語力を示すデータの結果を見て、以下のように分析した。

英語は好きだが、音読やリスニングが苦手で、4 名が音読は『どちらかと言えば嫌い』だとし、理由として自信がない、うまくない気がする、英語が苦手、しゃべりたくない、を挙げた。発音に自信がないのが大きな原因だと考えられるので、リスニング力を上げること、新出単語を徹底して発音練習させることから始めようと考えた。

4 仮説の設定

- ・仮説 1：何度もリスニングさせてから発音させることで、音読への自信もつくだろう。
- ・仮説 2：ペアを使い、ゲーム的要素を取り入れて発音することで、声が出るだろう。
- ・仮説 3：発表の場を多く設け、認め合うことで意欲も高まり、音読力が上がるだろう。
- ・仮説 4：シャドーイングを繰り返すことで、リズムに慣れ、読めるようになるだろう。
そこから「聞ける」「読める」という自信がつき、音読の声も大きくなるだろう。
- ・仮説 5：ALT との授業で話す場面を多く設定し、ALT とコミュニケーションできたことの達成感から、自信ができて声が大きくなるだろう。

5 計画の実践（仮説 1、2、3＝1 学期 仮説 4、5＝2 学期）

〈仮説 1 より〉新出本文→リスニング→聞き取り発表→板書。全文が聞き取れるまで繰り返す。

〈仮説 2 より〉①虫食いリーディング ②QA ゲーム ③Yosemite 不思議発見 ④インフォメーションギャップゲーム④間違い探し⑤長距離ペア音読、等を取り入れた。

〈仮説 3 より〉音読テスト：個人目標を設定させ、クリアできるよう音読発表を行う。

新出構文を使用してのスキットづくり→ペア発表→ビデオ録画

〈仮説 4 より〉CD 教材を使い、スクリプトを見ながらシャドーイング。家庭学習として、シャドーイング練習を毎日課した。

〈仮説 5 より〉授業までの休み時間に ALT と話したり、インタビューしたりする課題を与えた。

6 実践の結果

仮説 1 による実践では、板書することにより、どこに聞き取れない単語があるのか、集中して聞き取ろうという意欲的な姿勢が見られた。その後の音読も以前より自信を持って臨めた。仮説 2 による実践では、ペア活動やゲームなどを取り入れると、普段より声は出やすいのだが、その活動からの流れをもう少し工夫する必要がある。仮説 3 については、自分やペアを認めていくという点で効果的だが、継続して取り組む必要がある。仮説 4、5 については、わずかながら自信もついたようで、効果があったと思われる。

7 結果の検証

シャドーイングでは、リズムをつかんで音読する練習にもなり、読めるようになると実感し

たようだ。家庭での音読宿題も、意欲的な生徒はどんどん進んで読んでくれるようになった。音読の声は飛躍的に大きくなってはいないが、1学期に比べると良くなった。特に女子は、休み時間のインタビュー（会話）活動で、「話ができた」「わかってもらえた」「通じた」と自信がついたようで、その後の授業でも普段より意欲的に参加し、ALTに指導してもらえる授業を多く望むようになった。これは、2年生にとって大きな変化であり、今後の授業にも非常に良い影響をもたらすと思われる。

8 成果と課題

昨年1年、なぜこのクラスは特に声が小さいのだろうと思い悩んだが、今回アクション・リサーチに取り組んだことで、アンケート結果などから生徒たちの意識や望んでいることがよくわかり、改善されるよう授業に反映できたことは自分にとっても良かった。学習の定着が難しい生徒や、音読に気が向かないという生徒もいるが、3学期は生徒の多くが苦手意識を持つリスニングの克服や、ペア発表にも力を入れて指導したい。また、ALTとの授業もできる限り行いたい。

以下に1学期と2学期のアンケートの比較（抜粋）をして成果を報告する。

1. 英語に苦手意識がありますか？

	A ある	B どちらかと言えばある	C どちらかと言えばない	D ない
1学期	2人	2人		1人
2学期	2人	1人	2人	

2. A・Bの人は、どのような点で苦手だと感じますか？〔複数回答可：（ ）内は人数〕

1学期 (4人)	- 英語をリスニングすること（2） - ペアで練習すること（1） - 英語で文を書くこと（1）	- 英語を声を出して読むこと（2） - 単語の意味やスペルを覚えること（1） - その他（気持ちの面で苦手）
2学期 (3人)	- 英語をリスニングすること（3） - ペアで練習すること（2） - 英語で文を書くこと（2）	- 英語を声を出して読むこと（1） - 単語の意味やスペルを覚えること（1） - その他（テスト・英検）

3. あなたは、授業中に音読することが好きですか？

	A 好き	B どちらかと言えば好き	C どちらかと言えば嫌い	D 嫌い
1学期		1人	4人	
2学期	1人	1人	3人	

4. それは、なぜですか？

1学期		その時に読めなくても、読めるようになるから	- うまくない気がする - あまり自信がない - 英語が苦手 - あまりしゃべりたくない	
2学期	上達している気になれるから	読めると嬉しいから	- 読むのが苦手 - あまりおもしろくない - 面倒くさい	

5. あなたは、授業中に音読するときに、大きな声で読んでいますか？

	A 大きい	B どちらかと言えば大きい	C どちらかと言えば小さい	D 小さい
1学期		1人	3人	1人
2学期		3人	1人	1人

6. 5の質問でC、Dと答えた人だけに尋ねます。音読する声が小さいのは、なぜですか？

1学期 (4人)	- 特に理由はなく、声はあまり意識していない - 合っているかどうか不安だから	- 苦手だから - 自信がないから
2学期 (2人)	- 特に理由はない - 苦手	

生徒の意識として、自分の音読の声が大きいつと感じる生徒が増えたことは喜ばしい。今後もがんばってアクション・リサーチを発展させていきたい。